

SNSデータを用いた 都市回遊ポテンシャル分析

エリア価値向上に向けた回遊候補の評価と施策検討支援

日置 悠介 sse09-19

事業課題: 街全体の価値向上

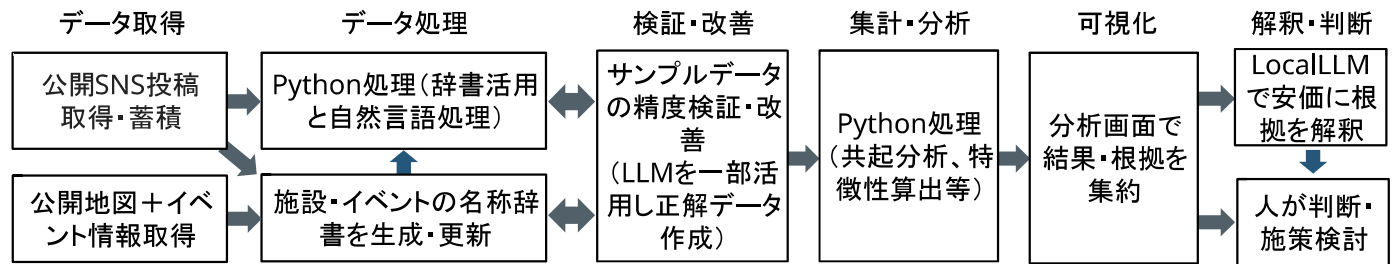
都市には商業施設・飲食店・文化施設が点在しており、それらの回遊を促すことで、街全体の体験価値、滞在時間、消費金額などを高めることが肝要。そのためには、回遊ポテンシャルのある場所を見極める必要があるが、大きな探索コストを継続的にかけることは困難である為、低コストかつ持続的に探索可能な手法の開発が必要であった。

解決方針: SNSで施策候補を評価

SNSのロコミ情報と公開情報を活用し、投稿に現れるスポット同士の組合せ、訪問目的、評価などを自然言語処理で解析。単なるスポットのトレンド把握ではなく、回遊ポテンシャルの示唆導出までできるようになった。無料データ、辞書データ、ルール処理、LLMを適材適所で使い分け、安価かつ持続可能な仕組みを開発した。

分析基盤: データ取得から示唆出しまで低コストで再現可能な仕組みを構築

処理はPythonで行い、LLMは検証データ作成、集計後データの解釈に限定。再現性と低コストの両立を実現。



評価設計: 単純件数ではなく、複数指標から多面的に関係性を評価

① フィルタリングを実施

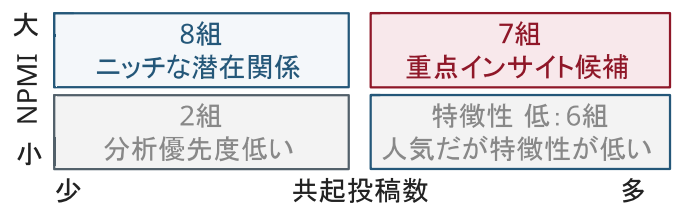
- ・同一施設を除外／距離 100m以上
- ・同時に言及した投稿 5件以上・投稿者 5人以上 など

② 評価ロジックで順位付け

特徴性 (NPMI) 60% + 共起投稿数 25% + ユニーク投稿者数 15% で加重平均して評価。

その他、同一IDの時間順スポット投稿遷移、イベント前後の回遊傾向の分析など多面的な分析を実施

③ 深掘りする対象の優先度選定



示唆導出: 主根拠と補強根拠を得点化し、4つのモデル事例を導出

強い根拠に加え、別の分析でも裏付けできる3つのモデルを導出。イベント回遊は観測少なく課題として選定。



今後: 継続的なインサイト導出・検証と、網羅性・精度面の補強を並行的に実施

事業成果: スポット間親和性・施策仮説と根拠を導出
限界: 同時言及、投稿順は実移動の証明とはならない

研究成果: データ処理と評価手法の開発
限界: ルールベースでは未知データへの精度に課題

今後: 示唆は現地調査・他データ・施策実証で検証。ルール処理できない未知表現に絞り

LLMを補足活用。